

5月販売 業務用 6%増 **家庭用は返礼品、DS動く**

農水省はこのほど、米穀販売業者（年間仕入れ5万ト以上）による5月における精米の販売数量・価格動向を発表した。家庭用米が増加に転じるとともに、これまで通り業務用米の増加・回復傾向が続いている。

5月の小売事業者（家庭用）向け販売数量は前年同月比で6.7%増となった。ふるさと納税返礼品の増加がデータに反映されているとみられるほか、ディスカウントストアの好調さが数値に表れているようだ。元年同月との比較でも7.7%上回り、6カ月連続のコロナ禍前の実績超えとなった。

中食・外食（業務用）向け販売数量は前年同月比で6.4%上回っており、3年11月から19カ月連続で前年同月を超えている。3月以降の中食・外食向けの回復や大型連休での人の動きの回復に伴う需要の戻りなどが表れたようだ。元年同月との比較では0.9%減少しており、需要の完全な回復とは言い難い状況。元年3月から51カ月連続で下回っている。

家庭用と業務用の合計の販売数量は前年同月を6.5%上回っている。元年同月比でも3.8%上回り、形としては家庭用の牽引によって5カ月ぶりの元年同月超えとなった。

一方、5月における精米販売価格は、家庭用が前年同月比で5.5%高となり、7カ月連続で前年同月を上回った。諸経費高騰の転嫁が反映されているようだ。業務用は前年同月比2.9%高で、2カ月連続で前年同月を上回った。一部業務用で4年産への切り替えが進んでいるとみられる。